

**市町村指定文化財取材票 《表》**

<b>取材日</b>	2023年	12月	6日	(記入者) 神野一美	
<b>取材参加者</b>	秋山	大谷	河添	神野	東辻
<b>取材対象先</b>	大和高田市：不動院の木造大日如来坐像				

<b>所在地</b>	大和高田市本郷町8-15				
<b>所有者(取材 対応者)名</b>	不動院(不動院 ****住職 (個人情報守秘))			<b>連絡先</b> 0745-52-1669	
				<b>PCアドレス</b>	
<b>取材申込</b>	申込先・行政名など：不動院				
<b>市町村 指定文化財</b>	彫刻	1	軀	木造大日如来坐像	2021(令和3)年6月24日指定
	建造物		棟		
<b>文化財指定理由</b>	寄木造りの技法が一般化する以前の古式な構造をとる鎌倉時代前期の秀作で、本堂の建立時期を遡り、当麻氏の動向を知るうえで重要な優品として貴重である。				

**文化財の状況**

	<b>設備・対策・点検・通知方法など</b>	<b>記入者の感想</b>
<b>防火対策</b>	本堂が重要文化財に指定されており、仏像はその中に祀られているため、防火対策については問題なく行われている。	特に問題ないと思われる。
	<b>被害の有無、対策など</b>	<b>記入者の感想</b>
<b>獣害対策</b>	市街地に位置しているため、獣害はない。	特に問題ないと思われる。
<b>保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策</b>	不動院の起源は明らかではないが、聖徳太子や、光明皇后もかかわったと言われている。弘法大師空海も滞在したことから、現在の山号にも「金輪山遍照院大日堂」の名が残る。本堂を建立したといわれる當麻為長の頃は、現在の高田駅周辺までが寺の広大な領地であったらしい。大名の庇護を受けていた頃からの栄枯盛衰を経て、西大寺の末寺になり、過去の廃寺や無住になった時期も越えて今に続いている。次代を担う後継者もあり、その点では問題は無いようである。	

**取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)**

本堂は昭和40年代に解体修理をしており建物の内側からは特に気づく点は見かけられず、仏像も非常にきれいな状態を保っているように見え、隅々に住職の心配りが感じられた。檀家とのかかわりも問題はないように思われるが、この頃は、自家の宗派や宗教さえ知らない若者が増えているので、仏教をこの先、50年、100年後にどのように残していくのか、住職は憂慮されていた。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	12月	6日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	東辻
取材対象先	大和高田市：不動院の木造大日如来坐像				

<写真撮影許可済>

文化財指定名 木造大日如来坐像

大日如来坐像	大日如来と厨子
	
文化財指定書	不動院本堂（大日堂）

	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

大日如来は大日堂（本堂）の本尊で、胸前で智拳印を結ぶ金剛界の姿を現す。構造は、ヒノキの一木割矧造りで、表面には漆箔が施されており、制作年代は鎌倉時代と考えられる。（大和高田市製作の説明板より）像高89.2cm。像は鎌倉時代の作とされているが、建物（平安時代）とも時代が合わず、台座・光背とも年代が合わない。元からあったものか、あるいは、どこかから移されてきたものかも不明である。

本堂は、大正14年に重要文化財の指定を受けている。もとは、高田城主であった當麻為長が一族の菩提寺として建立した「證菩提寺」であると言われている。明治6年に廃寺となり、大正時代に再興したが、その時には證菩提寺の名前もわからなくなり、野迫川村で廃寺になっていた「不動院」という寺号を移して、現在の名になったということである。地元では大日堂としての名前で親しまれている。